

## 思考力育成の観点からみる「読むこと」の授業開発

—非連続テキスト「絵」「絵巻物」を読む—

上月 敏子

Development of lessons on “reading” considered from the  
viewpoint of thinking ability development  
—Efforts to read “picture” and “picture scroll” as non-contiguous text—

Toshiko Kozuki

キーワード：思考力 非連続テキスト 課題解決の学習過程 主体的・対話的な学び

### はじめに

全国学力・学習状況調査結果や中教審答申において、国語科の小学校中学校共に、「判断の根拠や理由を明確に示しながら、自分の考えを述べたり、実験結果を分析して解釈・考察し説明したりすること」、「学ぶことと自分の人生や社会とのつながりを実感しながら、自らの能力を引き出し、学習したことを生活や社会の中の課題解決に生かしていくこと」、という面に課題があると指摘している<sup>1)</sup>。

目的をもち、主体的に課題解決を図ろうとする学習過程の中で、根拠や理由を明確にして自分の考えを述べたり書いたりする力、テキストから情報を読み取り解釈、評価する力を何より児童生徒に付けさせたいものである。これからの時代を切り開いて生きていく基盤

となるものであると考えるからである。

そのためには、①授業の中で考えを導き出すような根拠や事実と結び付けて思考する具体的な手立てがとられていること、②児童一人一人が自ら学ぶような意欲を醸成する工夫があること、③理解していることを整理して活用し新たな力を付けていく課題解決の学習過程をとっていること、④友達や周りの人と相互に意見を述べ合ったり助言し合ったりし、対話的・対話的に学ぶ力を育成すること、の四点が必要であろう。特に、①については、昨今言語活動の充実が言われる中で、活動目標を設定するのだが、学びの過程において活動が前面に押し出されるあまり、どのような力が付いているのかが明確ではないと指摘され、活動あって学びなしと危惧されている。どのような資質や能力を問題解決の過程で付

けていくのかを明確に示す必要がある<sup>2)</sup>。そして、その力はすでに今までの学習を通して身に付いている知識を振り返り、そこへ新しい知識を身に付け活用していく自主的な学びの中で育ち、学習意欲の醸成や友達や周りの人々との対話的協働的な学びでさらに深くなるものである。こうした視点に立って本実践を報告する。

## 1 実践研究の目的と意義

非連続型テキストを活用し思考力を育成する「読むこと」の授業をどのように構想するかという点から、具体的な提案を行ったのが平成25年度第5回小学校全国国語教育研究大会（横浜大会）及び横浜市立白幡小学校における「絵巻物の魅力を5年生に巻物（解説文付き）で伝えよう」という単元構想と実践である。これは筆者が兵庫県芦屋市立打出教育文化センターに在職中に行った研究実践であり、研究大会での公開授業という機会を得て、平成25年度白幡小学校渡辺誠教諭が、6年1組児童を対象に実践を引き継いで行った共同研究である。

一方、平成20年3月に公布された現行の学習指導要領に「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が位置付けられた。主には小学校3年生から、俳句や短歌、枕草子や徒然草など古典の冒頭部や一部の文語的な文章、狂言のシナリオなどが教材として取り上

げられている。M社はその一環として「鳥獣戯画」を題材に「絵」と「絵巻物」を解説する文章を教材として取り上げ、児童が解説する文章を書くことにつないでいる。

本実践の目的は、非連続テキストと言葉や文章を関連させながら読み、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、比較・対照・分類・関連付け・説明など思考の手立てを明確にして考える学習を通して、自分のものの見方を広げる力を付けることにある。

本稿では、学習の過程でどのように思考を重ね、児童の主体的な学びと協働的な学びを行い、目標に向かって課題解決に結び付けようとしたのかを、学習材の開発・主体的に問題を解決する学習過程の在り方といった視点から提案し考察する。そのことが新たな「伝統的な言語文化」の教育的意義を探り継承していくことにつながるのではないかと考える。

## 2 絵画鑑賞：美術館の取組と授業

近年、児童生徒が主体的に鑑賞し足を運びたくなるような工夫に取り組んでいる美術館は多い。そこには、授業のヒントが多くある。

また、奈良国立博物館では、信貴山縁起絵巻の公開に合わせた講座として、小学生とその保護者を対象に『空とぶ鉢』のお話し絵巻を作ろう」というワークショップが開かれた。(2011年4月) こうした取り組みも実践の参考となろう。

「美術をみる8つのポイント」(兵庫県立美術館2012年コレクション展1)

観賞リーフレット

- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| ① いちばんリアルな絵はどれ？      | ⑤ どれがいちばんモダニズム絵画？ |
| ② イズムを読みとれるか？        | ⑥ どんな考えか考えてみる？    |
| ③ どんな事件/体験？どんな記憶/記録？ | ⑦ 何のイメージ？         |
| ④ どんな動きがかくれている？      | ⑧ 景色をどう切りとるか？     |



「作品と友だちになる こつ」(神戸市立小磯記念美術館2008年「子どものじかん」)

鑑賞カード

表には、展示されている絵の写真と想像につながる一言ないしは一文が書かれ、裏には作者紹介と二百字前後の絵の解説文が書かれている。15枚のカードがパッケージに入っている。

- |                       |                   |
|-----------------------|-------------------|
| ① じっくり見る              | ⑤ 他の作品をくらべてみる     |
| ② きょうのお気に入りを見つける      | ⑥ 作品の中にはいつてみたら・・・ |
| ③ 作品のおはなしをつくってみる      | ⑦ 友だちとおはなししながら見る  |
| ④ 作品に話しかけてみる「なにしてるの？」 | ⑧ 友だちの感じ方の違いを楽しむ  |



こうした鑑賞の手引きや方法は、目の付け所やヒントを示しつつ鑑賞者である子供たちに対して問いかけたり、具体的な鑑賞の方法を示したりして、作品との対話を促している。自分のペース、自分の感性で主体的に考え想像することが重視されていることが分かる。単に集客数を増やすためだけでなく、子供たちの素直で豊かな想像力、感性を育てることに重点がおかれていることに意義がある。上野行一は「美術鑑賞とは、要するに、視覚の冒険であり、頭の体操であり、心の遍歴である。」と言う。また、「アートはあなたの心を映し出す鏡」であり、「必要なことは、気に入った作品を見つけ、少なくとも15分間じっくりと探索的、思索的に見る。そして、見て感じたことを友人と語り合うこと。この

二つだけである。」と述べている<sup>3)</sup>。

教育現場においても、「解説する文章を書いてミュージアムガイドを行おう」「筆者の書きぶりに学び、名画を解説しよう」など音声言語による解説や「絵画を見て、紹介文を書こう」「筆者のものの見方をとらえ、名画の解説文を書こう」などの目標を設定した文章を書く力を付けるなど多様な取り組みが行われている。小学校段階では、解説文や鑑賞文を書くことは学習指導要領に明記されていないが、絵画や展示品には解説する文章が用いられているし、音楽や図画工作で鑑賞したり解説したりする学習がある。本単元では、筆者の絵の見方や絵巻物に対する考え方を自分の意見や考えに生かすという主体性の観点から書いた文章をあえて解説文という。解説とは、「記

録』されたものを活用し、『説く』ために採用される表現様式の一つ」で「説明よりもいっそう主体的で、取り上げた対象の背景や外の資料などを活用し、分析的に説明する。」文章のことであると井上一郎は述べている<sup>4)</sup>。

絵を「見る」ということは、「創造的学習であり、大きな刺激がその後のものの見方や考え方、さらには生き方に影響を与えること」がある。「想像したことを作品にまとめることは創造力のなせるわざであり、そのような世界に早くから子供を導くことが重要なのである。」と、創造力を育成する学習の契機としての重要性を井上は説いている<sup>5)</sup>。授業実践においては、どのような絵にどのように出会い、絵のどこに着目して想像力を働かせ、考えればよいのか、またそれをどのような言葉や表現をつかってどのくらいの文章で他者に伝えていけばよいのか、一人一人の児童の腑に落ち、分かる具体的な学習過程をとることが重要である。

### 3 実践の中核となる「絵」「絵巻物」の価値

#### (1) テキストとしての「絵」と「絵巻物」

絵巻物「絵巻」は、もともとは奈良時代に中国から伝わったとされるが、「絵巻」「絵巻物」という言葉は、近世になってからの造語で中世には、「○○絵」とよばれていたらしい。それがやがて掛物などと区別するために

「○○絵巻」を呼ぶようになったという。その内容は、物語、説話、戦記、和歌、記録、雑（似絵）などの世俗的絵巻と、仏教・装飾経、寺社演技、高僧伝などの宗教的絵巻に分類される<sup>6)</sup>。絵巻物は、「巻物の形体を巧みに生かして文字と絵を組み合わせ、情景描写や物語の表現を試みたところに最大の特徴を有するものであり、①形が卷子であること⇒横への展開性をもつことで、独特の絵画世界がある、②内容としてあくまでも「物語」（時間的経過のあるストーリー）を絵画化していること⇒絵が物語性をもっていることであると言われている<sup>7)</sup>。物語を絵と共に楽しむことができ、具体的なイメージを与えられることで、より豊かな世界を感じ取ることができる。余郷裕次は、貴族階層においては千年も前から絵を見せながら物語を読み聞かせており、その後も絵巻物を用いて絵を見せながら物語を読み聞かせるという形態が発展しており、そこに読み聞かせの原点をみている<sup>8)</sup>。

また、マンガやアニメは「おもに輪郭線と色面で描かれたさまざまな絵をならべ、それに言葉をそえて、時間とともに、お話をありありと語ったもの」であり、「絵本（絵入り読み物）」⇒「写し絵（幻燈芝居）」⇒紙芝居⇒漫画やアニメーションとつながる日本文化、「語り絵」の長い伝統の中に位置づけられると高畑勲は述べている<sup>9)</sup>。物語性と、「絵」と「絵巻物」、その両面を生かすことのできる教材として価値あるテキストとなりうるものである。

今を生きる児童は、現代につながる「絵巻物」や「絵」を見て対話し、考え、表現することになる。和文化教育の観点からも、その学びの意義は大きいと考える。

## (2) 中核教材としての絵巻物「鳥獣戯画」

「鳥獣戯画」(「鳥獣人物戯画」。「鳥獣戯画」は通称)は、詞書やストーリーはないが、遊びや年中行事、祭りの中で動物たちが活躍する。その行動や動き、口から発せられる言葉を想像しただけでもおもしろい。漫画的な手法の原点を見ることができる絵巻物である。動物たちの動きや行動に吹き出しをつけ台詞や音を書き込んでみたくなる。マンガの祖であるといわれる所以である。12世紀に成立して現存する四大絵巻(「源氏物語絵巻」「信貴山縁起絵巻」「伴大納言絵巻」「鳥獣人物戯画」)の一つであり、アニメーション監督及び文筆家である高畑勲が長年の研究の結果書いた、単なる鑑賞の基準を越え、ぐいぐいと読者を絵巻物の魅力ある世界に引き込む解説をする文章である。墨線だけで描かれており、言葉や説明の文章はないが「鳥獣戯画」に登場する動物たちは、「あくまでもほんものの動物らしいまま、実に澁刺と自然に人間の所作を演じきっている。」高畑は絵巻物と現代のアニメーションに共通性を見出し、その視点も含め解説する文章として「鳥獣戯画を読む」を書き下ろしている。動物たちは、まるで人間のように年中行事やしきたりを行い、「世界を

見渡しても、そのころの絵で、これほど自由闊達なものはない」と述べ、現在の、世界に広がるアニメーションにつながる日本文化であり、大切に伝えてきたからこそ「人類の宝」であるというのである<sup>10)</sup>。

本単元の目標である言語活動として「絵巻物の魅力を巻物(解説文付き)にして5年生に伝える」ということを位置付ける。(読むこと言語活動例イ)絵と文章を対照させ、表現力豊かに解説する文章に学び、事実と感想、意見などとの関係を押さえたり、表現の豊かさや目の付け所を学んだりして、新たな絵巻物の絵を対象に様子や行動や言葉を想像して自分の絵の見方や考え方、感じ方を明確にしながら自主的に読むこと(C読むことウ)を実現できるようにしている。児童は、絵と対話しながら絵の細部や全体を見、筆者の書きぶりから学んだことを生かして記述し、友達と相互交流しながら巻物にして発表する。指導のポイントは三点ある。

- ①絵巻物の全体を理解しつつ、細部に着眼して絵と対照させて絵を読むこと。
- ②事実や描写と、考え、意見の両面から書くことを意識すること。
- ③読み手に語りかけナビゲートするような表現を学ぶこと。

一枚の「絵」と「絵」が連続して絵巻物としてつながり、新たな作品世界を生む。中核教材としての「鳥獣戯画」はそんなおもしろさをもっている。

### (3) 中核教材と絵巻物「伴大納言絵巻」 「信貴山縁起絵巻」を重ねて読む

「鳥獣戯画」に比べて「伴大納言絵巻」と「信貴山縁起絵巻」は、どちらも説話絵巻の分類に属す。物語を展開していくためにとられた手法にいくつかの共通点があげられる<sup>11)</sup>。

(表1)

共通するのは、登場人物が庶民であれ、貴族であれ、生き生きとした表情や所作の表現である。この点は、児童が一番着眼するところであると思われる。一方、秋山は人物の描写法、空間の処理法、受け止める鑑賞者の立場を以下のように差異があると述べている<sup>12)</sup>。

(表2)

児童は、鳥獣戯画と「伴大納言絵巻」「信貴山縁起絵巻」のどちらか一方とを重ねて読む。巻物を繰り広げながら読むことで、12世紀に描かれた絵巻物の中に現代につながる描写やおもしろさがあることを児童に感じ取らせたと思ったのである。しかし、児童は歴史を学び始めたところであり、絵巻物の中の一枚の絵について解説をするので、あいまいさや思いつきをさげ根拠に基づいた考えを示すために、時代背景や登場人物の関係性、事件を説明した資料を教師が準備し解説している。

表1 「伴大納言絵巻」と「信貴山縁起絵巻」における物語を展開していくためにとられた手法の共通点

	伴大納言絵巻	信貴山縁起絵巻
時間表現 異時同図	<ul style="list-style-type: none"> <li>円を描くような手法で三場面を描いている。(子供の喧嘩・父親が飛び出してくる・父親が子供をかばい相手の子供をけ飛ばすところ)</li> <li>火事の場面は繰り出していくことで時間の経過を感じさせる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>景観の変化で時間を表す。</li> <li>一つの建物の中を三つの部屋に区切り三場面を表す(東大寺で尼公が弟と出会う様子を三場面に分けて描いている。)</li> <li>一つの背景の中に同じ人物を何度も描いて時間の経過を表す。</li> </ul>
環境表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>事件や事柄と直接に関係しない環境表現。</li> <li>連続しない環境をつなぐための霞の表現。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事件や事柄の部分を拡大したり、付属する環境としても紅葉などを配したりする環境表現。</li> </ul>

表2 「伴大納言絵巻」と「信貴山縁起絵巻」における人物の描写法、空間の処理法、受け止める鑑賞者の立場の差異<sup>12)</sup>

	伴大納言絵巻	信貴山縁起絵巻
人物の描写法	<ul style="list-style-type: none"> <li>柔軟で流動感。必要に応じ、細い線描を引き重ねる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>抑揚のある線描で明快な輪郭。</li> </ul>
構成 空間の処理法	<ul style="list-style-type: none"> <li>画家の視点と対象との距離はほとんど一定</li> <li>ひたすら横に流れる。</li> <li>人物の大きさも遠景近景による変化がない。</li> <li>対比。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>画家の視点と対象との距離を自由に変化させる。</li> <li>視点が画面を左右に動くことに加えて前後つまり深さの方向に変化を示す。</li> <li>反復。</li> </ul>
鑑賞者の立場	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞者は、大事件の経緯や伴大納言の運命を、過去の出来事として客観的にたどっていくことになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>鑑賞者は、画家とともに主人公に近づき、あるいは遠ざかりして、物語のなかにまで自然にはいっていくことになる。</li> </ul>

たりしている。

(読むこと オ)〈言語活動例 イ〉

#### 4 研究実践の実際

##### (1) 本単元の指導目標

興味をもった絵巻物の魅力を解説し伝えるために、事実や意見、考えと絵との関係を押さえたり、自分の考えを明確にしたりして、絵巻物や絵を解説した本を読むことができる。

白幡小学校は、単元を通して育てたい5つの力を次の観点から明確にしている。(表3)

##### (2) 本単元の評価規準

###### 【国語への関心・意欲・態度】

- ・絵巻物や絵を解説した本に興味をもち、絵と文章を結びつけ、絵巻物や絵のおもしろさに気づいたりしながら文章や本を読もうとしている。

###### 【読むこと】(注1)

- ・自分の見方を広げ、絵巻物を解説するために、事実や意見、考えと絵の関係を絵の関係を押さえ、絵の全体や細部に着目して文章や本を読んでいる。

(読むこと ウ)

- ・絵巻物の魅力を伝える巻物を相互に発表して交流し、自分の考えを広げたり深め

###### 【言語についての知識・理解・技能】(注2)

- ・文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句との関係を理解している。

(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ-(オ))

##### (3) 活用した本や資料

〈教科書教材〉「鳥獣戯画を読む」国語6 創造 (光村図書出版)

- ①『信貴山縁起絵巻』(「新編 名宝日本の美術11」) 小学館
- ②『伴大納言絵巻』(「新編 名宝日本の美術12」) 小学館
- ③自作の「絵巻物の時代背景や用語、時間的経過、事件や出来事などの特徴をまとめた資料」

表3 白幡小学校における単元を通して育てたい5つの力

課題設定	情報活用	記述	コミュニケーション	評価
・既習の学習内容と学習方法を振り返り、課題を設定し、学習計画を立てる。	・解説の観点に基づいて複数の本や文章を詳しく読み、解説に必要な情報を的確に得る。	・複数の本や文章から得た情報を関連付けて、自分の考えを解説文の形式に書き表す。	・本や文章を読み、考えたことを交流し、自分の考えを広げたり深めたりする。	・他者からの評価を得て、自らの活動方法や身に付けた力を振り返る。

## (4) 本単元の指導過程 (全8時間)

表4 「鳥獣戯画」指導過程

	学 習 活 動	指導上の留意点	評価規準と方法
第一次 (2時間)	<p>◆課題設定と学習の見通しをもつ</p> <p>①同じ絵を解説した三つの文章を比べて読み、解説文の特徴を調べ、いろいろな書き方があることを実感する。</p> <p>②教材文[『鳥獣戯画』を読む]を前時に学習した絵の解説文と比べ読み、着眼点や書き方の違いを中心に感想を交流する。</p> <p>③他の絵巻物を読み、絵巻物の魅力を巻物で伝えようという学習課題を設定し、学習計画を立てる。(並行読書を始める)</p>	<p>○比べる観点を明確にし、同じ絵でも解説文の書き方に違いがあることに気付かせる。</p> <p>○『鳥獣戯画 甲巻』のレプリカを見せ、絵巻物に興味をもち、他の絵巻物も読んでみたいという気持ちを課題設定につなげる。</p>	<p>[関]興味をもって読み比べようとしている。</p> <p>[関]絵巻物を読んでみたいという思いを膨らませて、学習計画を立てようとしている。</p> <p>・ワークシートの記述内容の分析 ・発表の様子観察</p>
第二次 (5時間)	<p>◆教材文を読み、学んだことを生かして選んだ絵巻物の絵について解説文を書く。</p> <p>④教材文を読み、文章の描写部分(解釈・生き生きとした表現など)と考えの部分(意見・感じ方)を色分けし、文章構成や書き方の特徴をとらえる。</p> <p>⑤並行読書から「絵を読むコツ」や「解説文を書くコツ」を整理する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【巻物づくりのための読みのポイント】</p> <p>・場所・表情・服装・形・色・線・位置・格好(ポーズ)・想像できる音やにおい・風・不思議さ・伝わってくる気配・思い など</p> </div> <p>⑥選んだ作品の背景を資料から学んだり、自分の見方や考えを付箋に書いたりして、グループで決めた絵巻物を「絵を読むコツ」を参考にしながら読む。</p> <p>⑦自分が解説したい絵を選び、「絵を読むコツ」を参考にしながら、事実と自分の考えを区別してワークシートに書く。</p> <p>⑧同じ場面を選んだ友達と交流しながら、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○色分けすることで、文章に描写の部分と筆者の考えの部分があること、絵・絵巻物に関する解説や書きぶりの違いを実感させる。</p> <p>○自分の解説文に生かすという観点で、絵を解説した本を三冊以上読むことを確認する。</p> <p>○絵巻物についての理解を深めるために、絵巻物の歴史的背景や粗筋などをまとめた教師自作の資料を参考にする。</p> <p>○「絵を読むコツ」や「解説文を書くコツ」を掲示し、自分の解説に生かすように助言する。</p> <p>○評価語彙表を積極的に活用するよう助言する。</p> <p>○書きにくい児童には、大判の美術書の絵を見せ、細部や特徴を確認するように助言する。</p> <p>○目的を自覚し、5年生に分かるように書くため、構想メモ⇒下書き(原稿用紙)⇒推敲⇒相互交流・アドバイス⇒推敲⇒清書、という手順をとることを確認する。</p>	<p>[読]自分の見方を広げて解説するために、事実と意見、考えと絵の関係を押さえ、絵の全体や細部に着眼して、色分けし、本や文章を読んでいる。</p> <p>[読]何に注目して書いているのかなどポイントを整理しようとしている。</p> <p>[読]「絵を読むコツ」を生かして書いている。</p> <p>・ワークシートの記述内容の分析</p> <p>[言]評価や解説の言葉を積極的に使用し語彙を増やそうとしている。</p> <p>[読]絵巻物の魅力を伝える巻物を発表して相互に交流し、自分の考えを広げたり、深めたりしている。</p> <p>[言]文末表現や助詞の使い方など語句に着目して読み、語句と語句の関係を理解している。</p> <p>・原稿用紙の記述内容の分析 ・発表の様子観察 ・交流の様子と発言内容の分析</p>



	<p>⑨「解説文を書くこと」を参考にしながら、500字程度の解説文を書く。</p> <p>⑩グループで協力して、選んだ絵と解説文を絵巻物の順に組み合わせ、貼って、絵巻物の魅力を伝える巻物を仕上げる。</p>		
第三次 (2時間)	<p>◆できた巻物を発表し、学習を振り返る</p> <p>⑪発表会を開き、見方が違うところや共感するところなどの感想を交流する。</p> <p>⑫この学習で付いた力や課題などを自覚し、振り返りと自己評価を行う。</p>	○発表の際には、巻物を広げて説明するように助言する。	[関]自分の見方や考えについて深まったことを振り返っている。 ・記述内容の分析 ・発言内容と様子

〈公開授業1〉授業者：上月敏子

(1) 本時の目標

選んだ絵巻物の絵からわかる事実やそこから想像できる人物の様子や行動などの考えや感じ方を、グループで交流し、自分の見方や考え方を深めることができる。

(2) 本時の展開 (3/8時間目)

学習活動	授業者 T・Tの働きかけ
<p>1 今までの学習を振り返り、教科書教材「鳥獣戯画」の書き方の特徴を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・着眼点</li> <li>・ナビゲートする書き方</li> <li>・自分の考え、評価</li> <li>・問いかけのような書き方</li> </ul> <p>2 本時の学習課題を確認する。</p>	<p>○解説の特徴を「絵巻物を読むときのポイント」として整理した表を提示し内容を確認する。</p>
<p>グループで選んだ絵巻物の絵からわかる事実やそこから想像できる様子や行動などの考えを交流しよう</p>	
<p>3 絵の心を動かされたところ、よさ、心をひかれるところなど着眼点とそこからわかることや想像できることを記述した付箋を読み返し、書いたことを確認したり、付け加えたりする。</p> <p>4 グループで、絵に付箋を貼りながら、考えを交流する。(グループ)</p> <p>5 交流した内容を記録係が発表する。(全体)</p> <p>6 友達の見分で考えが広がったところ、疑問、見方が違うところ、意見の多かったところ、なるほどと思ったところなどを交流する。</p> <p>7 次時は、付箋の記述を活かして分担して解説文を書くことを知る。</p>	<p>○事実は青、意見や考えは赤の付箋に書き分けるように指示する。</p> <p>○グループで司会者、発表者、タイムキーパーなどの役割を決めて話し合いを進めるようにする。</p> <p>○絵が不鮮明で記述した内容を確認したいときには、大判の絵巻物の図録を見るように助言する。</p> <p>○付箋をはった絵巻物を黒板に提示したり、書画カメラで写したりして提示しながら話すように助言する。</p> <p>○全員が話し合いに参加できるように、係に時間配分を確認する。</p> <p>○交流で深まったことを確認する。</p>

〈公開授業2〉授業者：横浜市立白幡小学校 渡辺誠教諭

(1) 本時の目標

絵巻物を解説するために、自分が選んだ絵について全体や細部に着目して読み、自分の考えを明確にまとめることができる。

(2) 本時の展開 (6/8時間目)

	学習活動	指導の手立て(○)	評価(☆)・評価方法 ラーニングスキル(★)
きりどる	1 本時の学習課題と学習の進め方を確認する。	○着重点をはっきりさせて、自分の考えをまとめることを確認する。	
	<p>絵巻物を解説するために、自分が選んだ絵について全体や細部に着目して読み、自分の考えを明確にまとめよう。</p>		
くみどる	2 自分が選んだ絵について、自分の考えを書く。 ・全体と細部 ・着重点 ・評価語彙 ・自分の考え	○それぞれの児童が自分の考えに自信がもてるように、前時までに児童のワークシートの記述を確認しておき、一人一人の考えのよさを、ワークシートに記入しておく。	
やりとりをする	3 同じ場面を選んだ友達と交流しながら自分の考えを深める。 ・考えの交流 4 自分が選んだ絵について、自分の考えを書き加える。 ・自分の考え <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◇予想される児童の反応例 ・倉のそばにいる女の人を見てみると、その飛び上がる姿勢が本物の人間の動きとそっくりで、驚いている様子が伝わってくると思う。 ・確かに、その横にはかわらが落ちてきている。突然倉が動き出した様子が、そういうところからも分かるね。 ・着ているものが、強風にあおられているようになびいているね。 ・一瞬のことなのに、人々の様子が生き生きと描かれているね。</p> </div>	○考えの交流を円滑に進めるために、司会、記録、タイムキーパー、報告の役割を明確にし、ミニホワイトボードを活用して話し合えるようにする。 ○考えの交流を深めるために、ワークシートに書いたことを伝えるだけでなく、出された意見から、さらに考えたことを交流していくように指導する。 ○「絵を読むポイント」を提示し、それぞれの着重点を明確に共有しながら考えの交流ができるようにする。 ○自分の考えを書くことが難しい場合には、「語彙表」を提示し、参考にするように助言する。	エー1 絵巻物を解説するために、自分が選んだ絵について、着重点をはっきりさせて全体や細部を読み、評価語彙を使用しながら自分の考えをまとめている。 (発言内容の分析・ワークシートの分析) ★司会力 目的に照らし合わせて互いの考えを交流し、それぞれの考えの深化に寄与するように話し合いを進める。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〈関連付ける〉 絵の全体や細部と自分の考えを関連付ける。</p> </div>
ふりかえる	5 学習を振り返る。 ・自分の考えの深まり ・絵を読むポイント ・解説文を書くポイント	○交流を通して深まった考えをワークシートに記述できるようにする。 ○絵を読むポイントについて確認する。	

## 5 思考力育成の観点から見る実践研究の考察

### (1) 単元全体に関わる言語活動を通して、付けたい力

今回の学習で用いるのは、時間的経過の中  
び付けて主体的に読み、事実と感想、意見な  
どとの関係を押さえ、自分のものの見方や考  
え方を広げる学習を行うことになる。「あなた  
の考えは？見方はどうなのか？どこからそう  
考えるのか？」に対する答えを明確にしなけ  
ればならず、その意味で自分の考えを問われ  
ることになる。自我が育ち自分の考えをより  
个性的に表現する6年生という発達段階に適  
した教材である。

本単元の導入では、同じ絵を解説した複数  
の文章を比べ読んで絵を解説する文章は多様  
であり、違いがあることを実感させる。その  
後、中核教材を読み「(絵を読み、連続した)  
絵巻物の魅力を巻物(解説付き)で伝えよう」  
という学習課題設定を行う。より物語性をも  
つ「信貴山縁起絵巻」と「伴大納言絵巻」の  
どちらかをグループで選び、その中から自分  
が解説する絵を決め、解説の文章を書き、絵  
と解説文を組み合わせ貼り、グループで一  
つの巻物に仕上げる。その巻物を提示しなが  
ら、5年生に絵巻物の魅力を語らせたい。筆  
者の描写や考え、意見、構成を読み取ったり、  
他の絵画を解説した本を複数読んだりして、  
解説を書くときのポイントを発見し整理する。  
このときに大切なことは、絵巻物の全体を理

で展開される一連の、あるいは一部の物語性  
をもつ絵巻物と、絵を解説した本である。児  
童にとっては、「非連続テキストを効果的に使  
った文章を読む」というところから一歩進ん  
で、対象を自分の目で捉えて、絵と文章を結  
解しつつ細部に着目して絵と対照させて文章  
を書くこと、事実や描写と、考え、意見の両  
面から書くことを意識すること、読者に語り  
かけるような呼びかけを工夫することの三点  
である。

指導に当たっては、より見方を主体的かつ  
个性的にするために以下の点に配慮する。

- ①根拠を明確にした解説を行うために、絵  
巻物の歴史的背景や粗筋などをまとめた  
資料を活用する。
- ②評価語彙や読者を引き込む言葉の使い方  
表を活用する。
- ③友達の記事や巻物と相互交流を行い、自  
分の考えや見方を広げたり深めたりする。

### (2) 理解していること(既習)の整理と 付ける力の確認(一次)

思考力を育成する手立ての第一は、既習の  
学びを整理し、新しい学びを付け足していく  
ことの自覚である。

6年生の児童は、これまでに目的に応じて、  
文章の要点や細かい点に注意しながら読み、  
文章などを引用したり、要約したりして自分  
の考えを記述する力を身に付けてきている。  
また、5年生の「天気を予想する」では、図・

表・グラフ・写真などの非連続テキストと文章を照らし合わせながら、資料が表している内容を読み取り、筆者の意図や説明の効果などを考える学習を行っている。(表4) その際使用されている資料は、筆者の説明を分かりやすくし、結果として写真・グラフ・図など多様な資料の単体が複数あって、全体の説明の効果を高めているという特徴があることも学んでいる。これまでは、分かりやすく説明するために筆者の意図や効果を考え、非連続テキストと文章を関係付けてどのように説明されているかを読んできた。今回は一歩進んで事実と感想、意見の関係をつかみ、筆者の着眼点に学び、絵を見て想像し考え、自分の解説に生かす力を付ける。具体的なグラフや図という対象物から絵、絵巻物という新しい対象に出合い、これまでもっていた知識や経験に関連付けながら自分の感じ方、見方といった個を高めつつ分析的に考える力を付けることになる。

### (3) 同一絵画に対する複数の解説文の比較・分類 (一次)

思考を育成する手立ての第二は、比較することである。非連続テキストを読むという既習の知識を振り返った後、モネの「積みわら」の絵三枚を解説した違う筆者の文章(一部)を比べ読み、共通するところや違うところを話し合うことから導入を図る<sup>14)</sup>。太陽の当たり方に着眼していること点は共通だが、その書き方や表現の仕方には違いがある。それは、対象の違い、絵本・文庫本といった形式の違い、想定する読者の違い、筆者の切り口などの違いによる。児童の中には、文章より絵に目をとめたため感想の記述になりがちであったので、絵と文章を対照させてとらえるという今までの学習との関連付けが必要であった。

児童の考えは大きく分けると三点に分類される。一点目は、記述している人の立ち位置の違いである。絵の解説を中心とし知識を与え分析的に書いた①、読者を意識してインタ

表4 【国語科における指導内容の位置付け】

	低学年	中学年	高学年
身に付けた力	・時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の大体を読む力	・目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見のとの関係を考え、文章を読む力	・目的に応じ、文章の内容を的確に押さえ要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりする力
言語活動と思考操作	・事物の仕組みなどについて説明した本や文章を読むこと(つなげる)	・記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること(関係付ける)	・自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること(関連付ける)
教材	・じどう車くらべ ・しかけカードの作り方	・すがたをかえる大豆 ・アップとルーズで伝える	・天気を予想する ・鳥獣戯画を読む

ビューをするかのように書いている②、自分の感じたことを自由に短い言葉で詩のように書いている③、の違いである。二点目は、画家の紹介の有無である。①②は、画家の紹介や描かれた絵の背景にも触れているが、③にはない。三点目は、読者を引き込む表現の工夫である。「～のようだ」として積わらをケーキに例える(①③)、太陽を○として読者に考えさせる(③)。ミレーの積わらの絵と比較する(①)、自問自答しながらインタビューするかのように書いている(②)、など読み手を引き込む書き方の工夫がある点は共通している。どの筆者も文章の語尾や言葉のつかい方から自分の見方を大切にしている点も共通である。

感想の交流では、解説文の書き方は多様であり、想定する読者や伝える目的の違い、文章形式の違いなどがある、伝えたいことの着眼点があること、描かれた絵の背景や画家についても理解すること、読者を意識した表現があることなどを、全体で確認した。比較することで、解説文の概要が自己学習でき、共通点や相違点を見つけやすくそこから自分の考えを導き出すことができるようになる。児童の考えから学びの方向性を児童自身が自己学習していくことが大切である。自分たちも絵を読んで解説する文章を書こうという課題をたて、絵については、絵巻物という平安時代の中の絵を対象にすることを伝える。また、実際に、「鳥獣戯画」絵巻物のレプリカ<sup>13)</sup>等を見せ、意欲の醸成を図った。児童はその長

さに驚いていたようだ。歴史の学習を始めていることもあり興味をもったようだ。(写真1)



写真1 授業風景

#### (4) 絵と筆者の文章を対照・関係付けし、着眼点を整理・活用(二次)

思考力を育成する手立ての第三は、文章と絵を対照し関係付けて、自分の見方や考え方を整理していくことである。教材文としての「鳥獣戯画を読む」は、高畑の解説と共に、絵巻物の説明が及び絵巻物に対する考えが示されている。絵だけを見ても児童は気付くことはあるが、筆者が絵のどこに着眼してどのような考えを展開しているかを、絵と文章を対照させ関連付けて分析することが大切である。絵と文章を線で結ぶ、着眼点を付箋に書き「耳」「口」「手足」「骨格」「目」「右足」など着眼の場所とそこから分かること、考えたこと、感じたこととどのように結び付けているか、見る方法を線で結んで分析する。大きくとらえる視点、細部を見る視点、そこから何が言えるのか、筆者の目になって読んでいく。この学習では、自分が絵を見て、どこに着眼



(5) 評価語彙や読者を引き込む言葉の使い方表の活用 (二次)

感じられる 実にすばらしい 笑っている  
 たいしたものだ 生き生きと語っている  
 描いている ～にちがいない 実にすば  
 らしい のびのびしている ～ことがわか  
 るだろう ～としか思えない おもしろい  
 語っている どこかおかしくておもしろ  
 い わかる たいしたものだ なんとすて  
 きでおどろくべきことだろう 伝えてくれ  
 た  
 (『鳥獣戯画』を読む) で使用されている  
 評価の言葉)

読み取れる ～かもしれない 考えられる  
 受け取れる ひきよせられる 表れてい  
 る ひきつけられる 伝わってくる 表れ  
 ている 聞こえてくるようだ どこにも見  
 つからない見事である ～せずにはいられ  
 ない 味わい深い 深みがある あたたか  
 い すばらしい まるで～のようだ  
 (並行読書の本に使用されている評価の言  
 葉)

見事だ 躍動する 実に とびきり 一級  
 品 一見の価値がある 究極の 優れた  
 代表作 最高のでき 注目の 深みがある  
 奥深い あっと言わせる おもしろおか  
 しい 魅力的 生き生きと描かれている  
 心を動かす 心を奪う 心をひきつける  
 など  
 出典：井上一郎編著『読書力をつける (下  
 巻)』P87 明治図書

(6) 友達が書いた解説の文章との相互交流 (二次)

思考を育成する手立ての第四は、相互交流にある。白幡小学校では、全学年で児童による司会を行っている。数年にわたって全学年で継続して取り組んでおり、各教科等に共通する学習の基盤となる力を取り出しポートフォリオにしたものを「白幡小Aファイル」と呼び、全校で蓄積しながら共有化している。それを授業の中で活用し定着させている。司会力を育てるために、司会進行のマニュアルもAファイルの一つであり、どの教科等においても活用している。出された考えをもとに、考えを広め深めたり、一つに決めたりする必要があり、話し合いを深めるために、ラーニングスキルとして身に付けた「司会力」を生かす。出された考えをみんなで交流し、共通点に着目しながら自分の考えに結び付くところを探し、考えを深めていけるようにする。児童自身が司会や記録をしながら、自主的にグループの話し合いを深め、互いの思考を活性化できるようにしている<sup>14)</sup>。(写真3)

(7) 自主的な読書活動 (並行読書)

思考力を育成する手立ての第五は、豊かな読書生活を図ることである。自主的な読書活動を進める中で、複数の本や資料などから目的に応じて必要な情報を取り出し、自分の考えをまとめる。学校図書館や地域の図書館と



写真3 解説の文章作成と、書いた解説文を相互交流する活動の様子

連携し、絵巻物に関する本や文章を用意する。白幡小学校では、児童一人一人にブックボックスを持たせ、いつでも取り出して読めるようにしている。絵巻物はこれまで出合ったことのない文化財であり、時代背景や人物の関係性の理解を助ける必要がある。そこで教師が児童用に作成した資料も配布したり展示したりし自主的な学習に生かしている。そうした活動を通して、思考力・判断力・表現力が

より高まると考える。児童が自主的に読書活動を進められるように「読書リスト」を作成し、「必読本」や「お薦め本」を設定し本を選ぶ際の助けとなるようにする。学校図書館だけでなく、廊下や階段、空きスペースなどを活用して図書の展示や学習に必要なポスター等の掲示など言語環境の整備にも配慮している<sup>15)</sup>。(写真4)



写真4 並行読書のための図書の展示や学習に必要なポスターの展示

〈並行読書ブックリストの一部〉

『見てごらん! 名画だよ』 文: マリー・セリエ 監訳・結城 昌子 西村書店

『ひらめき美術館 第1館~第3館』 結城 昌子 小学館

『名画で遊ぶ あそびじゅつ!』 エリザベート・ド・ランビリー著

おおさわ ちか訳 長崎出版

『DADA こどもアートシリーズモネ色いろ』

DADA日本版編集部 訳: 今井 敬子 朝日学生新聞社

『日本の画家 ①近世の画家』 監修: 糸井 邦夫 汐文社

『小学館あーとぶっくシリーズモネの絵本』 構成・文 結城 昌子 小学館



### (8) 自己学習を促すワークシートの作成と活用（比較・対照・関係付け）

思考を促す手立ての第六は、言語操作や自己学習のためのワークシートの工夫である。白幡小学校では、ワークシートを三つのタイプに分類している。

- ①知識・技能をまとめたポイントシート
- ②思考を重ね、構造や知識を発見するためのワークシート
- ③習得したことを評価するチェックシート

児童の自己学習力を高めるためには、ノート他にこのようなワークシートを開発する必要がある。

①のワークシートは、児童が見つけた約束やコツを「○○のこつ 次のワークシートは10箇条」というように表にしてまとめ、学年があがっても取り出して活用できるようにファイリングしておくのである。

②のワークシートは、比較や分類、関係付けといった言語操作を行い自分の考えを導き出すワークシートである。以下のワークシートは、絵巻物の中で自分が分担した絵の着眼したところにシールを貼り、矢印でつなぎ、事実と考えを区別して考えをまとめたり、疑問点を整理したりするワークシートである。

井上は、ワークシート教材を以下の三つによって類型化している。

- ①言語体験型：言語活動の課題を提示するリード文に応じて言語体験をすることで豊かな言語体験の契機とするもの。記述する欄が大半を占め、体験の楽しさや意欲を喚起する。
- ②知識発見型：ワーキングすることによって知識や学び方を発見していく。プロセスに沿って記入する欄を配置している。
- ③知識中心型：身に付けさせたい知識やスキルを書いたコラムが中心となる。体系的な知識とチェックシートとで構成している。モデル学習も大切にしている<sup>16)</sup>。

紹介するワークシートは、②の類型にあたる。



## 6 児童による解説文（一部抜粋）

児童が、学んだことを生かして絵の細部に着眼して書いた解説文の一部を紹介する。

「急げ！」たくさんの人たちが火事が起きている応天門に向かっている。でも、なぜか休んでいるような人や周りを見ている人、興味をもって火事を見物に行こうとしている人もいる。右下の人を見てごらん。困った表情で不安そうにあたりを見回しているように見えるだろう？表情ももちろんだが、ポーズや体の描き方も細かくすばらしい。

階段を駆け上がっている人は、今本当に動いているようだ。何と階段を二段飛ばしで上がっている。すごく急いでいることが分かる。一本一本の線がていねいに描かれていて走っているのがよく分かる。今にも動きそうな手の動きだ。（以下略）

この絵は、主人（伴善男）を門まで送った家人たちの場面だ。まず家人たちの表情をよく見てみよう。泣いていてとても悲しそうだ。なぜだろう。次の絵を見ると主人の伴善男が連行されている。きっとこれは応天門に放火したのが伴善男だと分かり、連れていかれるのを悲しみながら見送っているんだね。次に周りの木を見てみよう。赤い葉の木はもみじだ。この木があること

で秋だということが分かる。木の葉まで細かく描いてあり、木の一本一本が生き生きしてすばらしい。木の周りの落ち葉を見てごらん。まるで家人たちの悲しさを落ちていく葉が表しているように見事だ。秋でも冬に近づいていることが分かる。（以下略）

ドドドドーン。大きな音をたてて鉢が飛んでいく。驚いた人は、口を開け、目を見開いている。大きな音をたてて米倉が天高く上がっていく。家の中にいる人はまだ気づいていない。この絵は、「信貴山縁起絵巻」の最初の部分だ。倉が飛ぶのを見て、驚きをかくせない人と、まだ気付いていない人の表情の違いが、一目でわかる。たぶん手前の女性がはだしなのは、米倉が飛ぶのに驚いて飛び出してきたからなのだろう。（以下略）

なお、児童により作成された解説文は、教室内等に掲示された。（写真5）



写真5 着眼点を検討する児童と、グループおよび作成された解説文の掲示

## おわりに

思考力の育成は、児童が対象となる、絵、自分自身、友達と対話を行いながら主体的に自己学習し、身に付いた知識を実際に活用し表現することで初めて身に付く。活動に流されてはいけませんが、一步を踏み出すことを恐れてもいけない。どこで、どのように、何を考え、どのような力を付けていくのかを大胆に構想して詳細に考える。そのためには、児童の考えや実態把握と深い教材研究が不可欠である。このことは、教育現場においても重要であると認識されているが、説明的な文章の読み方をどのように表現と結び付け、どのような具体的な手立てをとって思考力を高めていくかについて、さらに実践を重ね研究していく必要がある。本稿も、思考力育成の観点から見る説明的な文章の実践的な取組の一つである。

授業時数の確保、児童一人一人の個別の力を高めていくことと全体学習との関係、学校

全体で児童に身に付けさせたい力を教師が系統的段階的に共通理解し進めていくこと、など学校現場の課題は多い。地道な実践研究から解決の糸口が見えてくるはずである。

横浜市立白幡小学校教諭 渡辺誠先生の確かな授業力に支えられ、共に実践研究を深めることができたことと、完成した解説文付き巻物を白幡小学校の研究発表会で見たことは大きな喜びであった。記して感謝したい。

## 〈注〉

(注1) 文部科学省(平成20年)『小学校学習指導要領解説 国語編』、学習内容の領域の一つである。他に「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域がある。p3.p22～23

(注2) 前掲書、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」として我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てるため改善された、日本の言語文化と日本語の特質に関する事項。p3.p23～p24

## 〈引用文献〉

- 1) 文部科学省 (2016) 『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策について (答申)』 (平成28年12月21日).
- 2) 合田哲男 (2017) 『「審議のまとめ」を踏まえたアクティブ・ラーニングの考え方 国語教育と「アクティブ・ラーニング」国語教育NO、805 国語科授業に生かすアクティブ・ラーニングの視点』 明治図書、2017、1月号、p5.
- 3) 上野行一 (2011) 『私の中の自由な美術』 光村図書、p9~10.
- 4) 井上一郎 (2005) 『誰もがつけたい説明力』 明治図書、p97.
- 5) 井上一郎編著 (2004) 『国語力の基礎・基本を創る—創造力育成の実践理論と展開—』、p40~41.
- 6) 秋山光和 (1968) —図版解説 宮次男 中村義男 柳沢孝 『原色日本の美術8 絵巻物』 小学館、1968、目次.
- 7) 若杉準治編 (1995) 『絵巻物の鑑賞基礎知識』 至文堂、p29.
- 8) 余郷裕次 (2016) 『伝統的言語文化としての絵本の読み聞かせ—江戸期の画主従文「絵本」を中心に—』 和文化教育研究第10号研究論文』 和文化教育学会、p12.
- 9) 高畑勲 (1999) 『十二世紀のアニメーション』 徳間書店、p4~7.
- 10) 前掲書、p130.
- 11) 若杉準治編 (1995) 『絵巻物の鑑賞基礎知識』 至文堂、p44~48.
- 12) 秋山光和 (1968) —図版解説 宮次男 中村義男 柳沢孝 『原色日本の美術8 絵巻物』 小学館、 p156~157、p183~184.
- 13) レプリカ「国宝 鳥獣人物戯画 高山寺蔵」 便利堂.
- 14) 井上一郎・永池啓子編著 (2014) 『自学力育成プログラム』 明治図書、p19~20.
- 15) 前掲書、p27.
- 16) 井上一郎編著 『「汎用的能力」を高める！アクティブ・ラーニングサポートワーク』 明治図書、2015、p9